

また、37年度に赤色在来種を使って試験を実施した結果、3回刈で10a当9,800kgであったが、本年度のNK320では2回刈で10,000kgを上回ったことから、品種の選択も重要であることが判った。

云 ソルゴーの品種別収量比較試験

担当者 渡辺一三郎

(1) 目的

飼料作物の栽培労力節減を図るため、機械栽培が盛んになってきたが、作物の倒伏は、機械作業能率を甚だしく低下させるので、倒伏し難い作物を選ぶ必要がある。この点ソルゴーは再生力旺盛であるとともに、倒伏にも比較的強いので今後大いに活用されねばならない作物であると考えられる。

しかし乍ら、従来品種即ち、赤実在来種及び、黒実在来種以外にも、収量が少くあまり栽培されなかつたのであり、その後黒実在来種は多少改良が加えられ、又最近、多収性ノ代交品種が作出、或は輸入されたので、これら品種の特性及び収量を知り、高位生産並に機械栽培推進の資料とするため、本試験を実施した。

(2) 試験方法

(1) 試験場所及土壤

東京都種畜場内園場  
 洪積層火山灰土でPH  
 (KCl) 4.5~5.0

(2) 区割及び面積

1B = 6P / P = 12<sup>m</sup>2  
 3連

(3) 供試品種

黒実在来種 ニューソルゴー-F2  
 F3 (F2の自家採種) NK 145  
 NK320、スーダングラス (トルダン1)

(4) 区分

NO	品種名	NO	品種名
1	ニューソルゴー-F2	4	NK 145
2	黒実在来	5	トルダン1
3	NK 320	6	ニューソルゴー-F3

(ホ) 施肥量 10a 当 厩肥 2,000kg 硫酸 90kg 強過石 48.3kg  
 塩加 9.6kg 石灰 100kg を基肥とし 1 回刈後 10a  
 当 硫酸 20kg を追肥した。

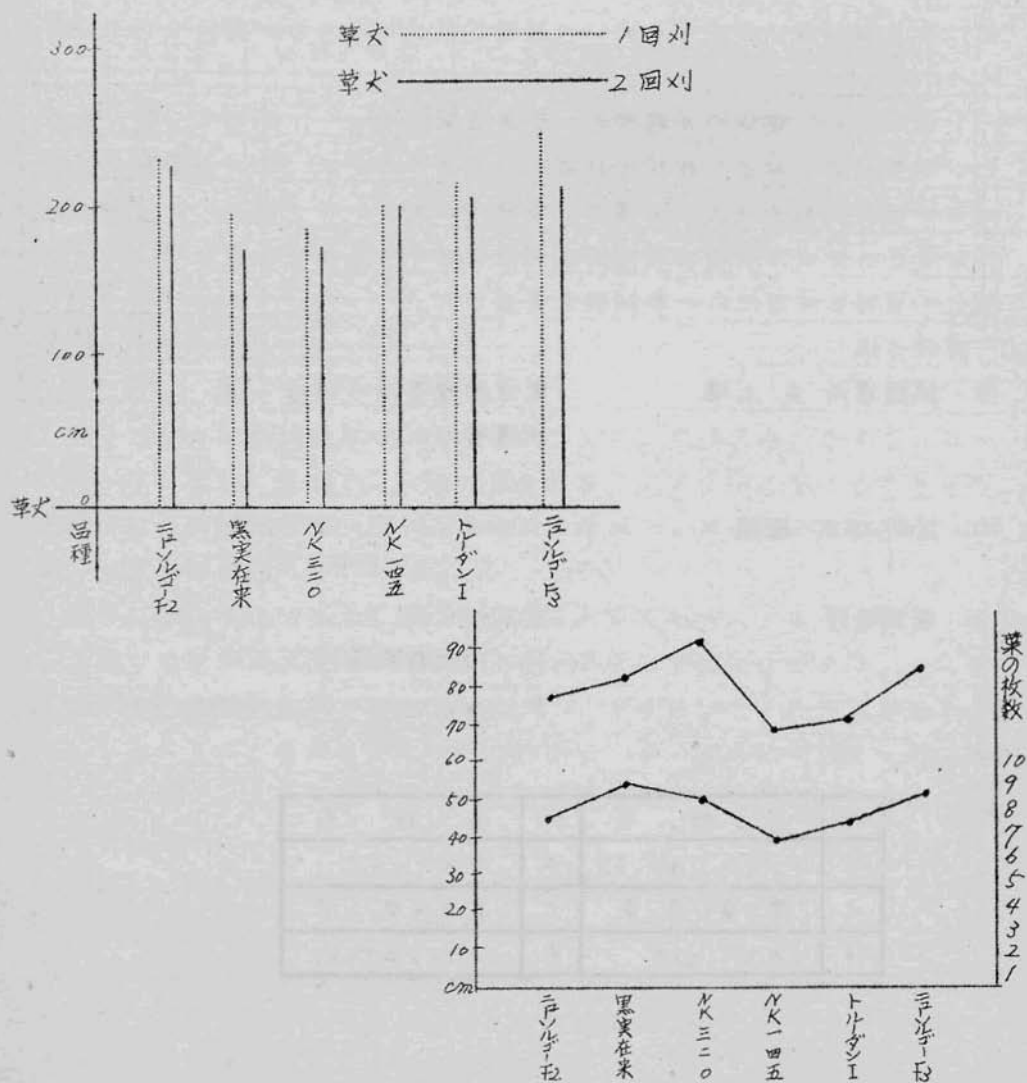
(ハ) 播種法及び量 畦巾 60cm 株間 30cm 1 株 5~6 粒 (10a 当約 1kg)

(ト) 播種月日 5 月 16 日

(3) 調査結果

(イ) 発芽並生育状況

5 月 23 日 発芽、極めて齊一であったが、1 週間後全面的に野鼠の害をうけ、一時的に生育が抑制されたが、その後は概ね順調に至過した。刈取期における草丈その他は次のとおり。



区10	品種名	1回刈(8/7)		2回刈(10/15)		葉長	葉巾	葉数	摘 要	
		草丈	草丈	1回刈期	2回刈期					
1	ニューラルF2	240.7 <sup>cm</sup>	240.0 <sup>cm</sup>	75.1 <sup>cm</sup>	3.94 <sup>cm</sup>	8,08枚	出穂期	出穂期		
2	黒実在来	211.0	181.0	78.3	5.80	3.25	穂ばらみ	穂ばらみ		
3	NK320	202.7	191.6	87.9	5.96	8.92	〃	〃		
4	NK145	217.7	224.3	66.0	4.19	7.00	開花期	出穂期		
5	トルタンI	233.9	228.2	67.9	2.81	7.58	出穂期	〃		
6	ニューラルF3	244.9	238.0	83.6	4.85	9.00	〃	〃		

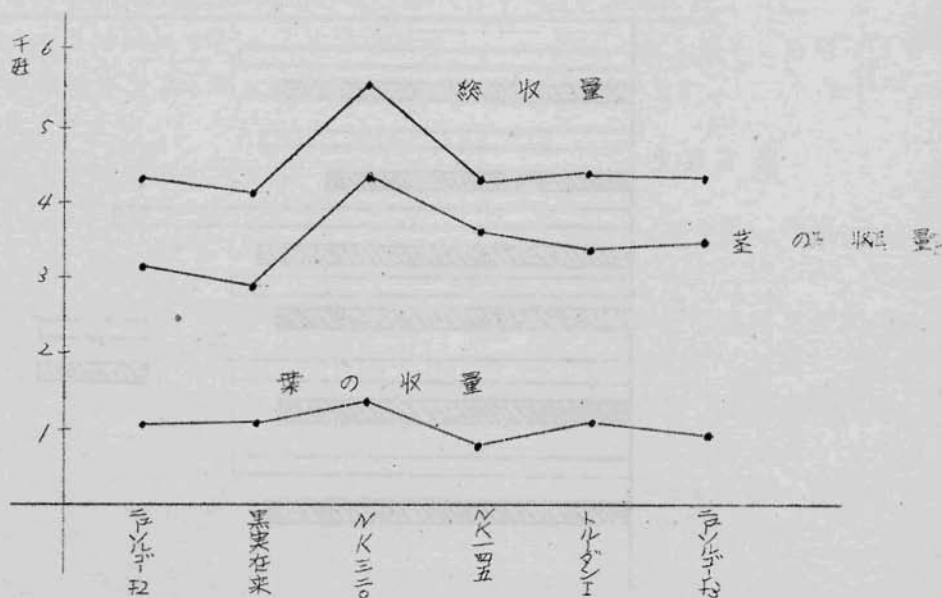
(2) 青草収量

刈取調査は1回刈を8月7日、2回刈を10月15日に行なった。

1回刈10a当収量 (8.7)

区10	品種名	青草収量	葉の収量	茎の収量	葉の割合	比率	10a当収量	摘 要
1	ニューラルF2	4,320.6 <sup>kg</sup>	1,125.1 <sup>kg</sup>	3,195.5 <sup>kg</sup>	26.04%	100%	52.1 <sup>kg</sup>	出穂期
2	黒実在来	4,126.4	1,116.8	3,009.6	27.06	95.5	49.7	穂ばらみ
3	NK320	5,767.5	1,386.8	4,380.7	24.05	133.5	69.5	〃
4	NK145	4,405.6	794.6	3,611.0	17.90	102.0	53.1	開花期
5	トルタンI	4,440.3	1,023.3	3,417.0	23.05	102.8	53.0	出穂期
6	ニューラルF3	4,394.3	910.8	3,483.5	20.73	101.7	52.9	〃

(註) 生育日数 83日 刈取高 地上5cm



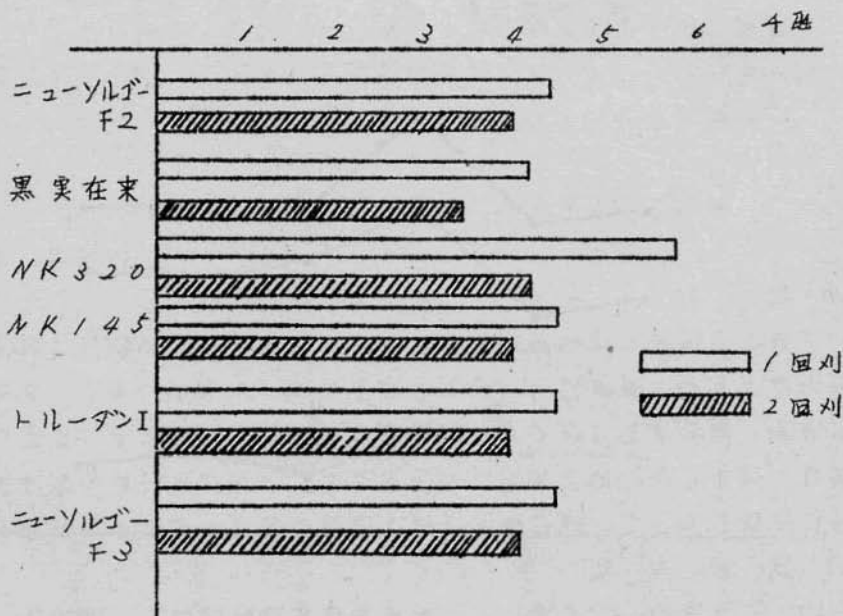
2回刈10%当収量 (10.15)

No	品種名	収量	比率	1回当収量	摘要
1	ニューソルゴ-F2	3,846.5 <sup>Kg</sup>	100%	55.7 <sup>Kg</sup>	再生良好 出穂期
2	黒実在来	3,376.9	87.8	48.9	再生悪 穂ばら刈期
3	NK 320	4,196.8	109.1	60.8	再生良好
4	NK 145	3,901.3	101.4	56.5	早生再生良 出穂揃花
5	トルーダン I	3,827.8	99.5	55.5	再生良好、出穂期
6	ニューソルゴ-F3	4,024.2	104.6	58.3	再生良好、出穂期

(註) 生育日数 69日

合計収量

No	品種名	1回刈収量	2回刈収量	合計収量	比率
1	ニューソルゴ-F2	4320.8 <sup>Kg</sup>	3,846.5	8,167.3 <sup>Kg</sup>	100%
2	黒実在来	4126.4	3,376.9	7,503.3	91.9
3	NK 320	5767.5	4,196.8	9,964.3	122.0
4	NK 145	4,405.6	3,901.3	8,306.9	101.7
5	トルーダン I	4440.3	3,827.8	8,268.1	101.2
6	ニューソルゴ-F3	4,394.3	4,024.2	8,418.5	103.7



#### (4) 考 察

特性について — ニューソルゴー F3 (自家採種) は生育、再生状況ともに F2 と同様であって、自家採取による選化はみられなかった。

NK320 と黒実在来種は、草丈及び葉の性状も類似していて、ともに晩生種であった。

NK145 は草丈も比較的 low、葉が前記 2 品種に較べ小型で枚数少く且つ出穂も早いことから、おしり採実用品種に似ていた。

トルーダン I は (青刈用スーダン / 代交配) 晩生で、生育はニューソルゴーに劣らず旺盛であった。

再生について — 最も旺盛で迅速に生長したのは NK145 で、ニューソルゴー、NK320、トルーダン I は同程度で、黒実在来種が最も悪かった。

青刈収量について — 熟期の異なる品種を同時に刈取って比較したのは妥当ではないが、刈おくれによる再生への影響を考慮して、あえて刈取を行った。1~2 回刈ともに NK320 が最高収量を示し、黒実在来種が最低で、他の 4 品種は殆んど差がなかった。このことは黒実在来種の再生が悪く、再生収量が少なかった事と、熟期も他品種と較べて若かった事によるものと考えられる。

#### (5) 要 約

(1) 以上のことから、本試験で最も多収な品種は NK320 で、他の 4 品種も従来の在来種に較べて優れていることが解った。

(2) ニューソルゴーの 1 回自家採種したものも、購入種子と比較して充分利用できるものと考えられた。

### 三 青刈とうもろこしとソルゴーの混播試験

担当者 渡辺一三郎

#### (1) 目 的

1 回刈の増収と機械栽培にあたって最も障害となる倒伏の防止、並にとうもろこしの二度蒔労力の節減を図るため、37 年度において実施したのであるが、供試する予定であった黒実在来種が入手できず、止むなく赤実在来種を使用したため全体的に収量が少なかったので、本年度は多収性の 1 代交配種を使って、昨年度の成績の選試の意味も含めて本試験を実施した。

#### (2) 試 験 方 法

(1) 実施場所 及 土壤 東京都種畜場内圃場 沃積層、火山灰土